

## 環境汚染管理の総合化

公害を追放し、きれいな空気ときれいな水のもと、健康な暮らしをしたいと、今日、国民のだれもが願うようになった。しかし生産の急激な上昇、都市の過密化など累積する要因にはばまれて、環境汚染はますます深刻化している。対策を講じようとしても、現在の行政では局所的業務で処置できなくなっているのが実情である。

そこで、高度なシステム技術を導入し、総合的な観点から環境汚染を規制管理する必要がとえられ、近年、各府県・市において、総合管理システム設置の動きが具体化しつつある。

環境汚染を総合管理するには、汚染および気象観測などのデータ収集、汚染および排出源濃度の監視など汚染現況の把握をし、さらに中・長期にわたる防止対策、緊急時の処置のための汚染の予測、情報検索、情報解析といった情報処理、およびさまざまな規制といった機能を有機的にまとめ、トータルシステムとして運用することが必要である。

下図はこの要請にこたえて、日立が提案した環境汚染総合管理システムである。ここには、オンライン制御、デ

ータバンクとその利用、汚染予測モデルなど、コンピュータ技術、システム技術が総合的に発揮される。すなわち、

(1)オンライン制御により、多量の観測データの収集、ならびに予測規制など高度の判断をとまなう緊急時のオンライン処置ができる。

(2)データバンクとその利用技術により、現状の把握はもちろん、汚染の未然防止の観点からデータの蓄積と一元的管理を行なうことができる。

(3)汚染予測モデル、汚染規制のために必要な短期予測や、環境容量のための長期予測にも、適応モデルをつくることが重要であり、それは日立のシス

テム技術の本領とする所である。

環境汚染管理システムは大規模なもので一挙に実現しうるものでなく、段階的に導入されるのがふつうで、すでに多くの県や市ではテレメータ化した監視システムを設置しており、次の段階では予測システム、あるいは公害情報処理システムの導入が図られることになる。

さらに、大気汚染ばかりでなく、水質、騒音、振動など公害全般に対して、総合的な立場から取り組む必要性が強く叫ばれているが、この総合管理システムは、そのような場合にもいかに威力を発揮する。

